

DATA FILE



名前	KYANITE (カイヤナイト) / 藍晶石
化学組成	Al_2SiO_5
色	青色、緑色、灰色など
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断口	不規則
硬度	4~5 (直角方向) 6~7.5 (軸方向)
比重	3.7

藍晶石 KYANITE

ガラスのような光沢を持ち、素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕を示す。

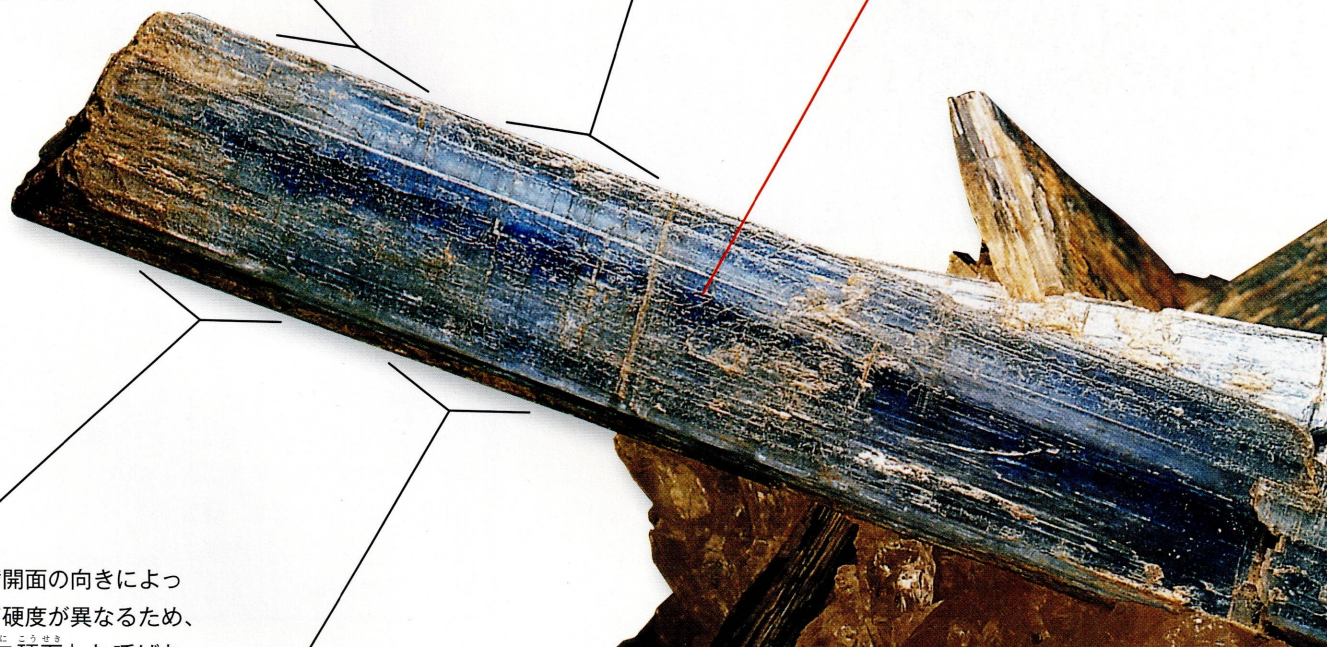
扁平な柱状結晶で産した藍晶石。ブラジル産。

珪線石、紅柱石とは、同じ化学組成を持つ多形の関係にある。

劈開面の向きによって硬度が異なるため、「二硬石」と呼ばれることもある。

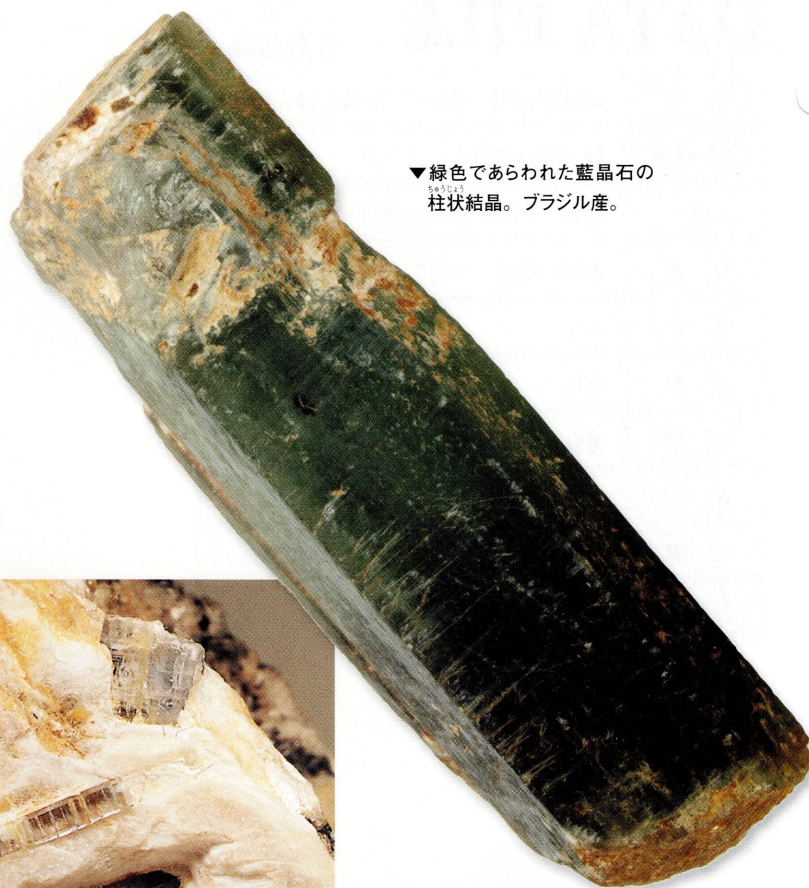
ハンマーでたたくと不規則な断口があらわれる。

高い圧力を受けてできる変成岩中に生成し、結晶片岩、片麻岩、角閃岩などの中に見られる。



高圧力下で生成

主に青色だが、ほかにも緑色や灰色などさまざまな色であられる藍晶石の結晶は、四角形の断面を持つ刀身状になることが多い。珪線石、紅柱石とは、同じ化学組成を持つ多形の関係であるものの、比重はそれぞれ異なっており、最も低いのが紅柱石で、最も高く緻密にできているのが藍晶石だ。これは、生成するときに受ける圧力や温度の違いによるもので、3つのなかでは、藍晶石が最も高い圧力を受けてできた変成岩中に生成する。また、耐熱性も高いため、車のエンジンに使用されるスパークプラグなど、耐熱材の原料に広く用いられている。

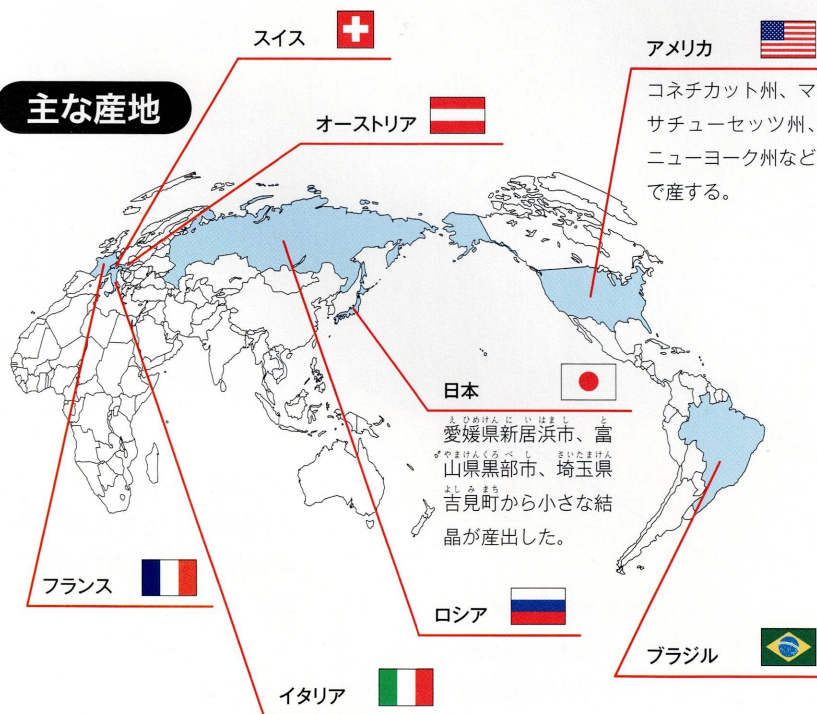


▼緑色であられた藍晶石の柱状結晶。ブラジル産。

ラ 藍晶石

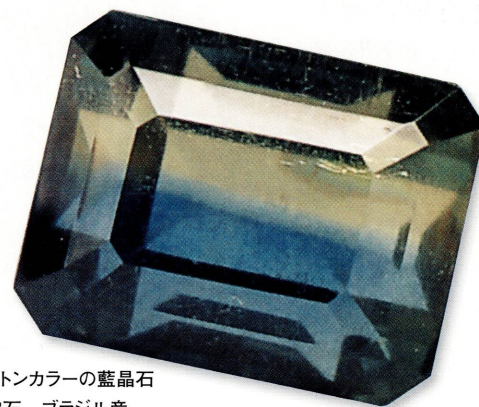


◀藍晶石の刀身状結晶。スイス産。



異なる硬度

藍晶石の硬度は、傷つけようとする向きによって異なるのが特徴。劈開面に沿った軸方向は、硬度が6～7.5なので傷が付きにくい。劈開面と交差する直角方向では、硬度が4～5であるため傷が付きやすい。この性質から、「二硬石」と呼ばれることもある。



▶ツートンカラーの藍晶石の宝石。ブラジル産。